

第1 基本的事項

1 作成の趣旨

- 平成20（2008）年3月に策定した北海道医療計画（以下、「道計画」という。）においては、計画の中核をなす疾病・事業がそれぞれの医療連携体制の構築とその推進においては、地域単位で保健所が市町村、医療機関、関係団体、道民と共に取組む必要があることから、道計画の策定に合わせ、第二次医療圏の中心となる保健所において、地域の実情に応じた医療連携体制を構築し、円滑に推進するための方針として、圏域ごとに「地域推進方針」を作成し、また、道計画を平成25（2013）年3月に一部改訂したことにより、地域推進方針についても、平成25年度に見直しを行っています。
- 現行の地域推進方針の期間は、道計画と同様におおむね5年間としていることから、平成30（2018）年度を始期とする新たな道計画の策定と合わせ、第二次医療圏ごとに設置している保健医療福祉圏域連携推進会議において、現行の地域推進方針における目標の達成状況や施策の進捗状況の評価などを行い、5疾病・5事業及び在宅医療それぞれに係る医療連携体制を構築し、円滑な推進を図るため、北渡島檜山圏域における地域推進方針を作成することとしました。

2 地域推進方針の名称

第二次医療圏の名称を冠し、「北海道医療計画〔北渡島檜山地域推進方針〕」とします。

3 地域推進方針の期間

- 道計画の期間に合わせ、平成35（2023）年度までの6年間とします。（平成30（2018）年度～平成35（2023）年度）
ただし、道計画や在宅医療その他必要な事項については、3年ごとに調査、分析及び評価などを行い、必要がある場合は計画を変更するものとしていますので、地域推進方針についても同様の取扱いとします。

第2 地域の概況

1 地勢と交通

(1) 地理・地勢

- 北渡島檜山圏域は八雲町、長万部町、今金町及びせたな町の4町から構成され、渡島半島の北部に位置しており総面積約2,473.77km²と北海道総面積の約2.97%、渡島総合振興局・檜山振興局総面積の約37.67%を占めており、佐賀県や神奈川県よりやや広い面積を有しております。
- 地形は、東に内浦湾から太平洋、西に日本海の二つの海に面し、中央部

には1,000m級の渡島山系が縦走り地域を2分しており、行政区域でも八雲町、長万部町は渡島総合振興局、今金町、せたな町は檜山振興局と二つの総合振興局（振興局）にまたがる道内唯一の圏域となっています。

- 季候は対馬暖流の影響により比較的寒暖の差が少なく温暖な地域ですが、日本海側、太平洋側の両方から湿った暖かい空気が入りやすく、降水量は比較的多く、また、低気圧や台風の影響を受けやすい地域です。

冬季の檜山地方では、冬型の気圧配置により、強風が吹くことがあり、檜山北部は積雪の多い地域となっています。

(2) 交通機関

- 空路（※ 各町は各町庁舎から）

北渡島檜山圏域には、空港はなく、圏域各町から近い空港は「函館空港」となっており、各町から空港までの距離は次のとおりです。

八雲町 ⇄ 函館空港	約 81 km	長万部町 ⇄ 函館空港	約 111 km
今金町 ⇄ 函館空港	約 124 km	せたな町 ⇄ 函館空港	約 129 km

- 航路

北渡島檜山圏域には、せたな町から奥尻島への定期航路があり1日1往復、片道1時間35分で運航しています。

- 鉄路（※ 各町は各町庁舎から）

太平洋側にJR函館本線が通っており、特急は八雲駅、長万部駅にそれぞれ停車し、八雲駅から函館駅までは最短で1時間1分、長万部駅から函館駅までは最短で1時間20分で結ばれています。

また、今金町、せたな町から八雲駅、長万部駅までの距離はそれぞれ次のとおりです。

今金町	⇄ 八雲駅	約 43 km	せたな町	⇄ 八雲駅	約 49 km
	⇄ 長万部駅	約 41 km		⇄ 長万部駅	約 52 km

なお、平成28（2016）年3月26日に北海道新幹線の新青森・新函館北斗間が開通し、さらに、平成43（2031）年春に同新幹線の新函館北斗・札幌間の開業が予定されており、地域活性化の切り札として新幹線の早期着工に期待が集まっています。

- 道路

主な道路は、太平洋側の国道5号線と日本海側の国道229号線が中心となっております。

この他に国道230号線や277号線など、日本海側と太平洋側を結ぶ国道や道道などが整備され、自動車交通への依存度が高い地域となっていますが、冬季の天候悪化などにより、日本海側と太平洋側を結ぶ路線は、

自家用車はもとより、路線バスなど公共交通機関での移動が困難な状況となる場合などがあります。

(3) 生活圏

若年労働者の流出などによる過疎化が進展し、生産年齢人口（15歳から64歳）の減少と高齢人口（65歳以上）の増加が急速に進んでいます。また、医療機関や大型商業店舗については散在して分布している状況にあります。

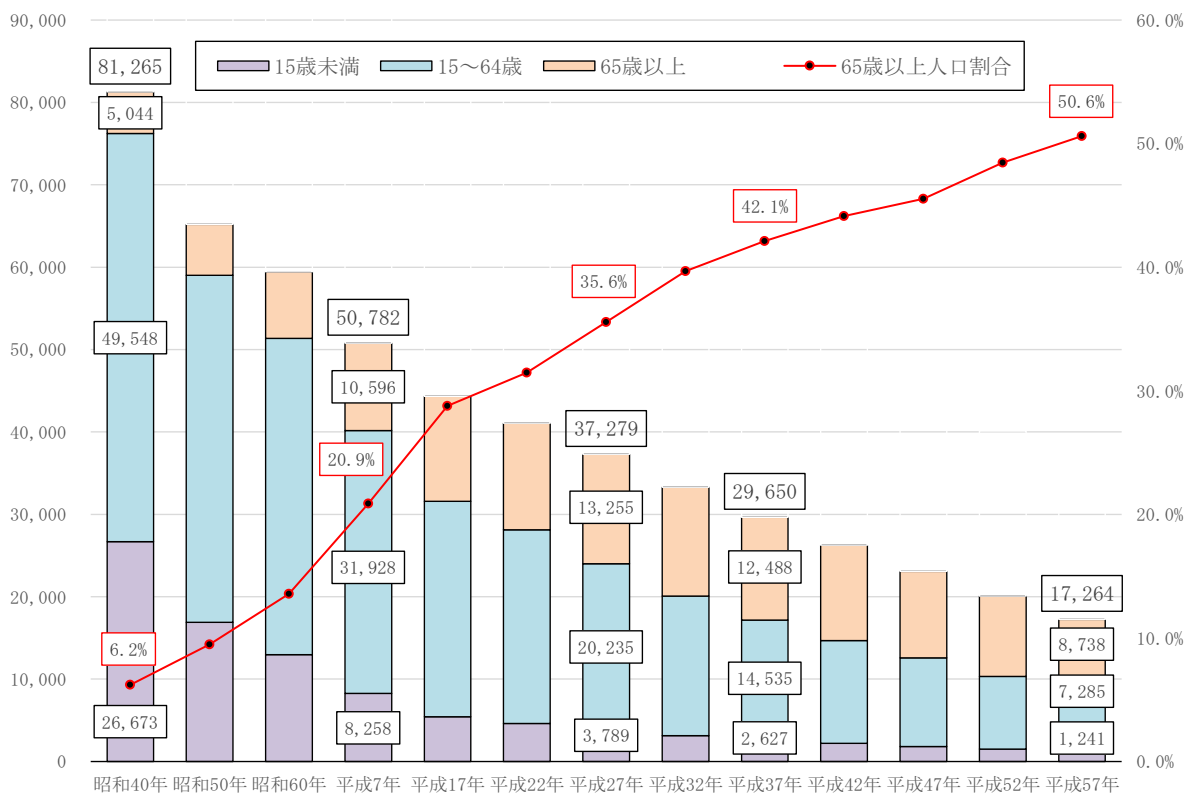
2 人口の推移

(1) 人口構造

① 人口

平成27（2015）年の国勢調査における圏域の総人口は37,279人で、年々減少しており、また、国立社会保障・人口問題研究所による将来人口の推計によると、さらに減少傾向が続くものと見られています。

【人口の推移及び将来人口推計】（平成32（2020）～57（2045）年は推計）



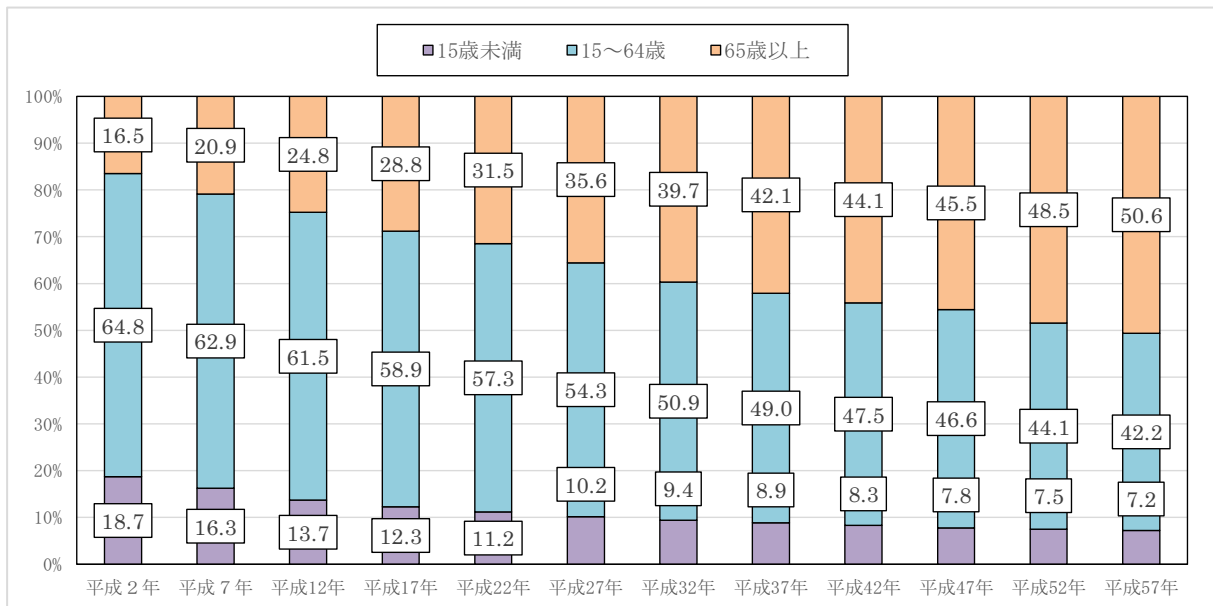
※ 国勢調査及び国立社会保障・人口問題研究所による推計（平成30(2018)年3月推計）

② 年齢三区分別構成割合

年齢三区分別構成割合では、年少人口割合（15歳未満）と生産年齢人口割合（15～64歳）が減少しており、平成7年国勢調査で、初めて年少人口割合（15歳未満）が老年人口割合（65歳以上）を下回りました。逆

に、老年人口割合（65歳以上）は年々増加しており、全道の老年人口割合を上回る勢いで増加しています。

【年齢三区分別構成割合の推移】（平成32（2020）～57（2045）年は推計）

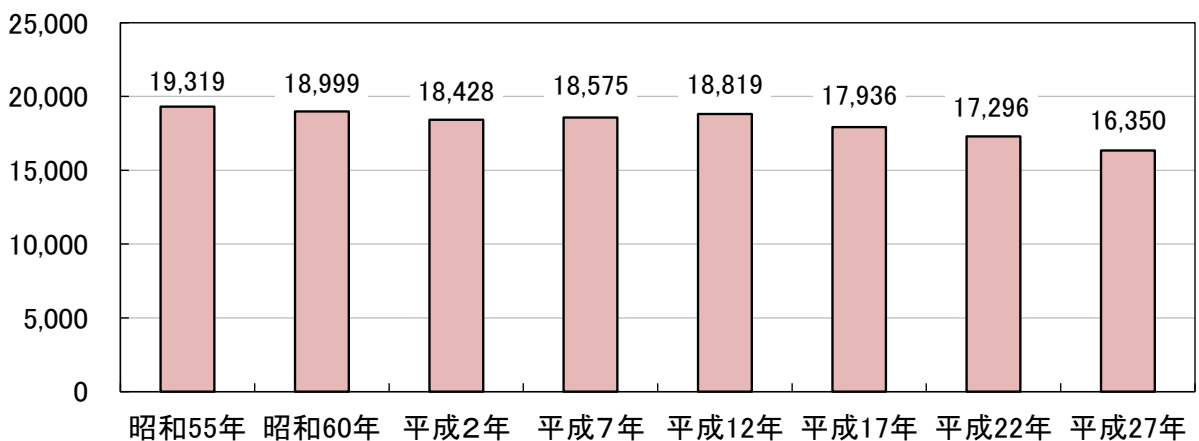


※ 国勢調査及び国立社会保障・人口問題研究所による推計（平成30(2018)年3月推計）

③ 世帯数

世帯数も総じて減少傾向にあるものの、その減少割合は、核家族化や単身世帯の増加などから、人口減少と比べ小さいものとなっています。

【世帯数の推移】



※ 国勢調査

(2) 人口動態

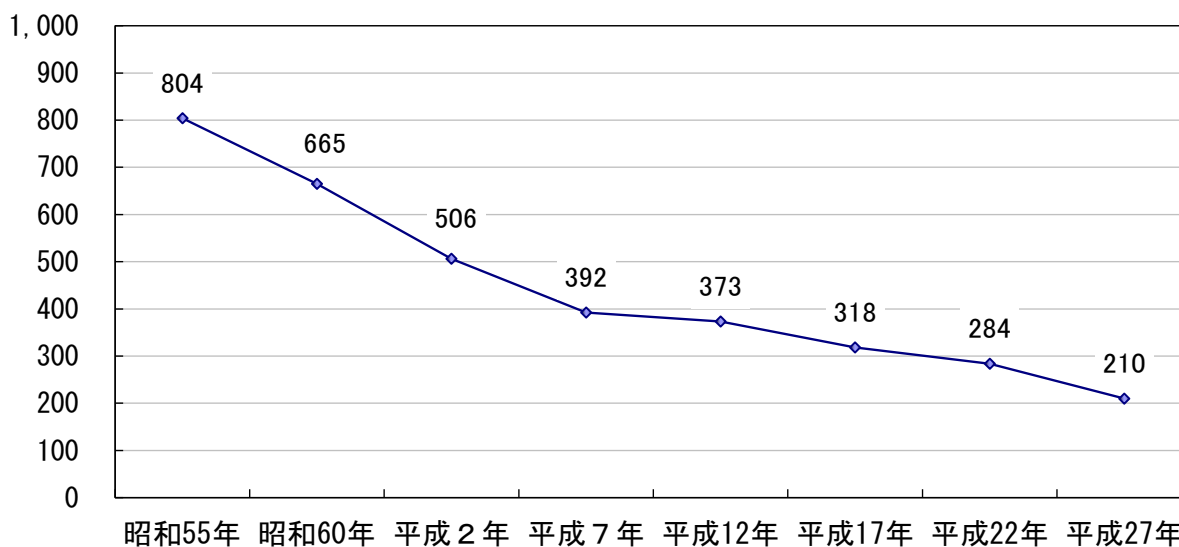
① 出生数

出生数は著しく減少しており、平成17（2005）年には昭和55（1980）年の半数以下にまでなっています。

平成26（2014）年の合計特殊出生率※は、この地域では1.55となっており、全道の1.27及び全国の1.42を上回っています。

※ 合計特殊出生率：一人の女子が生涯に生む子どもの数に近似する指標。

【出生数の推移】



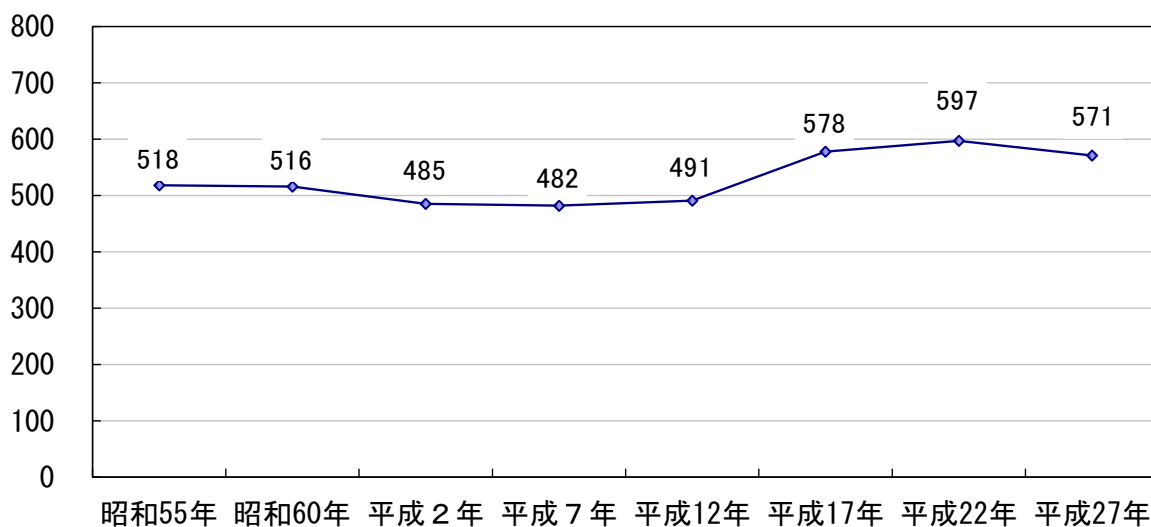
※ 道南地域保健情報年報

② 死亡数

死亡数は、平成17（2005）年で増加に転じましたが、今後は管内人口の減少に伴い、死亡数はいずれ減少に転じると推測されます。

周産期死亡数、乳児死亡数、新生児死亡数は、いずれも減少傾向です。

【死亡数の推移】



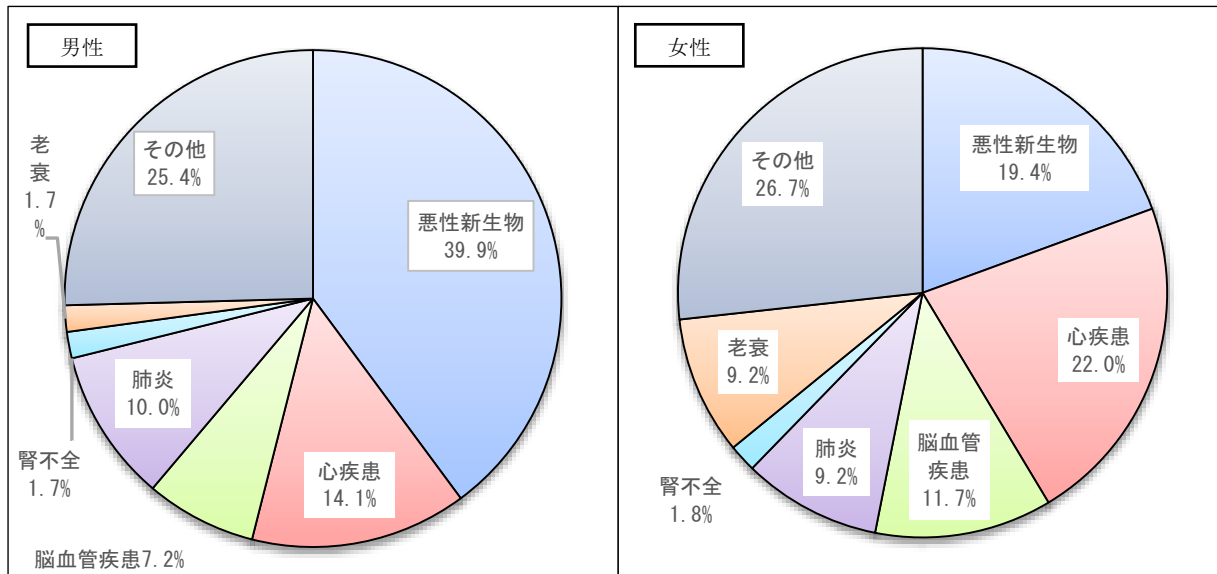
※ 道南地域保健情報年報

【周産期死亡数、乳児死亡数、新生児死亡数の推移】

	昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
周産期死亡数	—	3	3	2	6	2	2	1
乳児死亡数	12	4	2	1	1	0	0	0
新生児死亡数	6	2	1	0	0	0	0	0

※ 道南地域保健情報年報

【平成26（2014）年主な死因の割合（男女別）】



※ 道南地域保健情報年報

③ 平均寿命

平成27（2015）年のこの地域での女性の平均寿命は全国、全道と大差はありませんが、男性の八雲町男性の平均寿命は全国・全道平均を2歳前後、せたな町の男性のそれは1歳前後下回っています。

平成27年	八雲町	長万部町	今金町	せたな町	全道	全国
男性	78.8	80.5	81.1	79.6	80.3	80.8
女性	86.4	86.5	87.0	87.2	86.8	87.0

※ 平成27年市区町村別生命表

3 患者の受療動向等

(1) 患者の受療動向（平成28（2016）年度）

① 入院

圏域の入院医療自給率※は72.3%で、圏域外への流出割合は、南渡島25.4%、西胆振1.6%、札幌0.7%となっています。

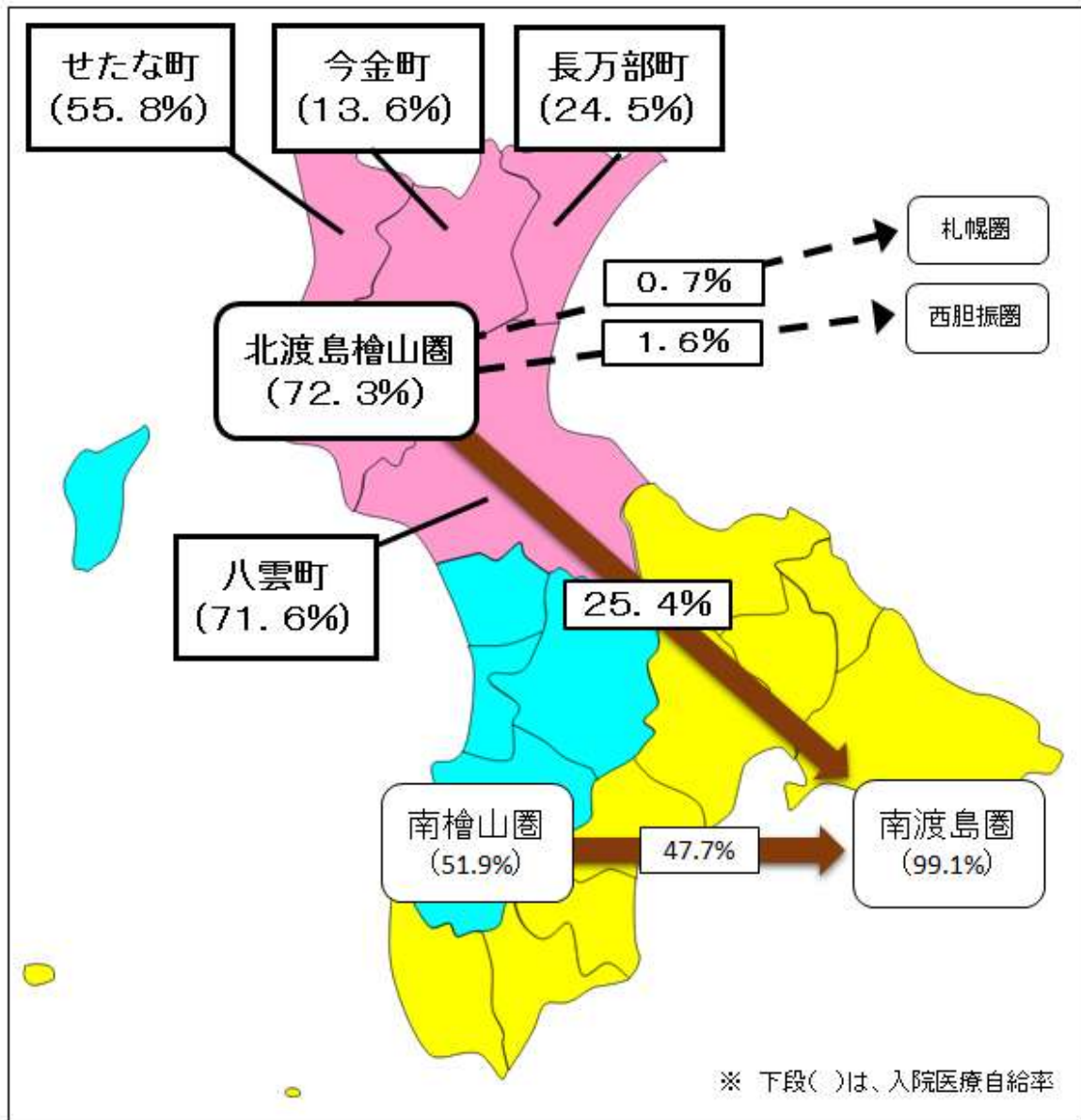
② 外来

圏域の外来医療自給率※は78.5%で、圏域外への流出割合は、南渡島

16.1%、西胆振2.7%、札幌1.3%、南檜山1.2%、その他0.3%となっています。

※ 医療自給率：患者が居住している第二次医療圏内で受療している割合。

【平成28（2016）年度 道南圏域 入院医療自給率】



【平成28（2016）年度 北渡島檜山圏域 入院医療自給率】

市町村名	入院 受給率	患者 流出率	主な流出先			
			同一地域	流出率	他圏域	流出率
八雲町	71.6	28.4	せたな町	3.2	南渡島	25.1
長万部町	24.5	75.5	八雲町	38.2	南渡島	18.8
今金町	13.6	86.4	せたな町	39.3	南渡島	29.4
せたな町	55.8	44.2	八雲町	15.4	南渡島	26.1
圏域全体	72.3	27.7	—	—	南渡島	25.4

(2) 病床利用率

平成28(2016)年の病院報告(厚生労働省)によると、管内の病院病床利用率は72.0%(全道:79.1%)で、病床の種類別にみると、「一般病床」は66.8%(全道:73.7%)、「療養病床」は77.4%(全道:86.1%)となっており、すべての病床利用率が、全道値を下回っています。

(3) 平均在院日数

平成28(2016)年の病院報告(厚生労働省)によると、管内の病院平均在院日数は65.5日(全道:32.1日)、「一般病床」は35.8日(全道:17.5日)、「療養病床」は528.9日(全道:215.6日)となっており、全道値を大きく上回っています。

4 医療施設

(1) 病院数

病院数は、平成29(2017)年12月末現在で7か所となっています。
病床数は、平成12年以降は減少傾向にあります。

【病院数の推移】

昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	平成29年
7	8	9	8	8	8	7	7	7

※ 医療施設動態調査(各年12月末現在)

【病床数の推移】

年	昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	平成29年	
総数	1,227	1,264	1,345	1,185	1,359	1,206	1,206	1,082	1,063	
病床	精神	100	100	100	100	100	100	100	100	
	結核	75	25	5	0	0	0	0	0	
	感染症	65	40	40	25	0	4	4	4	
	療養	-	-	-	-	211	371	371	362	341
	一般	823	952	1,091	969	959	642	642	597	599
診療所病床	164	147	109	91	89	89	89	19	19	

※ 医療施設動態調査(各年12月末現在)

(2) 診療所数

一般診療所数及び歯科診療所数は、減少傾向にあります。

【一般診療所数の推移】

昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	平成29年
26	24	23	19	22	21	18	17	17

※ 医療施設動態調査(各年12月末現在)

【歯科診療所数の推移】

昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	平成29年
11	14	15	19	18	21	21	19	19

※ 医療施設動態調査（各年12月末現在）

（3）助産所数

助産所は、現在圏域内にありません。

【助産所数の推移】

昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	平成29年
5	4	4	1	1	0	0	0	0

※ 八雲保健所調

（4）薬局数（販売店）

薬局数は、平成12（2000）年以降はほぼ横ばいです。

【薬局数の推移】

昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	平成29年
8	10	9	10	13	14	15	14	15

※ 八雲保健所調

（5）訪問看護ステーション

訪問看護ステーションは、平成30（2018）年4月1日現在で圏域内にありません。（指定居宅サービス事業所（訪問看護）及び保健医療機関の「みなし指定事業所」を除く。）

5 医療従事者の年次推移

（1）医師、歯科医師、薬剤師の状況

医師及び歯科医師については、平成16（2004）年までは増加傾向にありましたが、それ以降は減少傾向にあります。

薬剤師については、平成12（2000）年をピークにそれ以降減少傾向にあります。

【医師・歯科医師・薬剤師の状況】

	昭和55年	昭和60年	平成2年	平成6年	平成12年	平成16年	平成22年	平成26年	平成28年
医師	40	45	55	54	70	70	52	50	50
歯科医師	14	17	19	22	25	28	25	24	23
薬剤師	22	34	43	33	57	48	51	51	48

※ 「医師・歯科医師・薬剤師調査」（各年12月末現在）

(2) 看護師、准看護師の状況

看護師については、増加傾向にあります。

准看護師については、平成12（2000）年までは増加傾向で、それ以降は減少傾向にあります。

【看護師・准看護師の状況】

	昭和55年	昭和60年	平成2年	平成6年	平成12年	平成16年	平成22年	平成26年	平成28年
看護師	91	145	175	192	291	319	362	411	416
准看護師	188	225	239	244	248	224	207	185	175

※ 「看護師等業務従事者届」（各年12月末現在）

(3) 保健師、助産師の状況

保健師については、平成12（2000）年までは増加傾向でしたが、それ以降は横ばいの傾向にあります。

助産師については、減少傾向でしたが、平成17（2005）年以降は横ばいの傾向にあります。

【保健師、助産師の状況】

	昭和55年	昭和60年	平成2年	平成6年	平成12年	平成16年	平成22年	平成26年	平成28年
保健師	19	29	31	33	44	40	44	41	42
助産師	14	13	9	8	9	7	5	5	6

※ 「看護師等業務従事者届」（各年12月末現在）

(4) 歯科衛生士の状況

歯科衛生士については、増加傾向にあります。

【歯科衛生士の状況】

平成10年	平成12年	平成14年	平成16年	平成18年	平成20年	平成22年	平成24年	平成26年	平成28年
9	14	17	16	16	19	24	24	30	32

※ 「歯科衛生士業務従事者届」（各年12月末現在）

(5) 主な病院従事者の状況

理学療法士、作業療法士、管理栄養士、診療放射線技師・臨床検査技師・衛生検査技師及び臨床工学技士については、増加傾向にあります。

【主な病院従事者の状況】（平成14（2002）年以降は常勤換算後の人員）

	平成10年	平成12年	平成14年	平成16年	平成18年	平成20年	平成22年	平成24年	平成26年	平成28年
理学療法士	5	5	10	12	15	13	19	19	23	27
作業療法士	3	5	6	8.5	6	9	12	13	12	15
医療社会事業 従事者	14	17	18	15.1	13	11	10	10	13	13
管理栄養士	11	8	8.5	8	7	8	8	9	13	13
栄養士	4	3	3	3	4.8	3	3	3	1	1
診療放射線 技師	13	15	15	16	17	17	18	17.5	13	20
臨床検査技師・ 衛生検査技師	25	25	22	21	23	21.5	21.5	24	26	26
視能訓練士	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2
言語聴覚士	—	—	1	1	1	2	2	3	3	1
臨床工学技士	1	2	4	6	7	10	12	10	13	12.9

※ 病院報告（厚生労働省）